

1993 年度日本惑星科学会秋期講演会後記

土山 明¹

日本惑星科学会の第1回秋期講演会が、大阪大学教養部において1993年10月15～16日の二日間にわたって開催された(組織委員長:小嶋稔 阪大理宇宙地球)。惑星科学会の講演会は、これまで地惑関連学会合同大会の固有セッションとしては行なわれたが、学会が単独で行なうものとしては初めてのものであった。今回の講演会開催が急に決まったこともあり、どの位の方が参加されるのか不安もあったが、いざ開いてみると参加登録者149名で、丸々二日の会期中発表と盛んな討論が終始繰りひろげられ講演会は成功、有意義なものになったと思う。サイエンスの内容は予稿集に譲り(残部あり、500円+送料)、ここでは組織委員

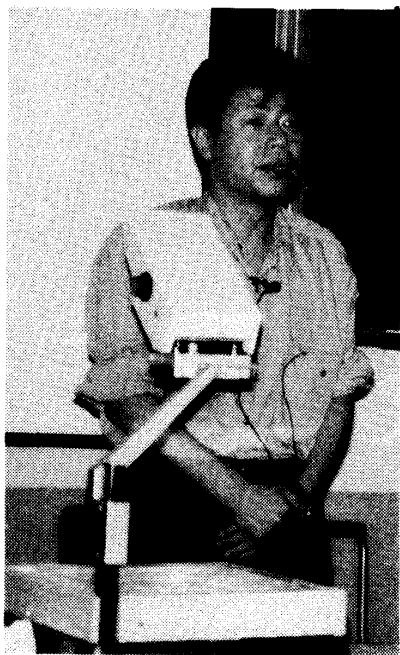


写真1.

会(LOC)のメンバーとしてお手伝いさせて頂いたもの一人として、学会の雰囲気などをお伝えし、最後に講演会の会計報告をおこないたい。

講演会は、中澤会長のあいさつの後、池内了先生(阪大理宇

宙地球)による特別講演が「宇宙の構造をめぐって」という題でおこなわれた。特別講演は会員外の一般の参加を無料にしたためもあり、午前10時からという早い時間にもかかわらず、多くの方が聴きに來られた(写真1)。私自身は講演会運営の雑務で、残念ながらお話しを始めと終わりの一部しかお聴きすることができなかったが、想像を絶するような壮大なテーマと、興奮が伝わってくるような先生の話し方が印象的であった。一般講演は67講演がエントリーされ(内1講演キャンセル)、1会場で行なわれた。講演時間が一人12分と短くせざるを得なかったため、質問をしたくても時間がないということで、フラストレーションがたまった方も多かったかと思う。この点に関しては、後でもう少し述べたい。懇親会は1日目の夜に、阪大生協で行なわれた。小嶋稔組織委員長の挨拶の後、阪大理宇宙地球の池谷元何先生の乾杯ではじまり、シメは宇宙研の水谷仁先生にお願いした。いずれの先生のご挨拶も簡単明瞭で(あるいは何の愛想もなく?)、私には非常に良かった。LOCではなるべく多くの学生さんにも懇親会に出席して欲しいという方針で、できるだけ低料金に抑えたが(一般会員4000円、学生2000円)、あっというまに食べものがなくなってしまい、懇親会参加者にご迷惑をかけたと思う。惑星科学会はおそらく他の学会よりも学生や若手研究者の比率が多く、その分”欠食児童”も多かったという

¹大阪大学教養部

ことで御勘弁願いたい。2日目は朝9時から大勢の人が集まり、1日目同様熱心な講演討論が続けられた。午後の休憩時間を利用して、集合写真を撮り(写真2)、その後阪大のシンボル(?)であるマチカネワニの化石標本の見学をおこなった。阪大教養地学の増田富士雄先生に解説をお願いした。話のうまい先生で、説明を聴かれた方は短い時間ではあるが満足していただけたのではないかと思う。集合写真のときの“大ボケ”(集合してハイ写真を撮りますといったがカメラの電池切れでシャッターがおりず、急遽別のカメラを探しに走った)は御愛嬌ということで、お許し願いたい。セッションは少し遅れて6時頃無事終了した。

以上簡単に学会の経過を報告したが、組織委員会の会計報告の前に少しコメントを述べさせていただきたい。

阪大のワニ

今回の講演会のプログラムの表紙にワニ化石の写真が載っている。予稿集の表紙にもワニ、講演会の看板にもワニがいた。惑星科学会なのに何故ワニなのだろうか、古生物学会と違うのだぞと感じられた方も多いと思う。今回の学会に参加された方は理解されたと思うが、このあたりの事情をもう一度簡単に説明させていただきたい。実は中

澤会長から、阪大のシンボルになるような図を送って欲しいという指示が来た。LOCは理学部+教養部なので、片方だけの宣伝になってはいけないと思い、ワニ君に登場願った。これは1964年に理学部新築工事中発見された日本で最初の化石ワニで、地名よりマチカネワニと名づけられた。阪大では割と有名な存在である。このワニ君がプログラムや予稿集の表紙に大きく載ったわけである。惑星科学会なので、惑星とか彗星と一緒に飛ばしておけば良かったと後で気がついたが、まあお許し願いたい。第1回秋期講演会が阪大でおこなわれた記念として、ワニ君も名誉なことであろう。蛇足であるが、ワニ君の鎮座まします部屋(我々はワニの部屋と呼んでいる)に、シカの剥製と骨格標本があったことをお気づきになった方はおられるだろうか。ワニの部屋でこれが2番目に有名な標本であり、なかなか珍しく一見の価値があると思う。なお、阪大教養部は今年度いっぱい廃止され、地学科は理学部に所属する予定である。今回の日本惑星科学会第1回秋期講演会が、阪大教養部でおこなう最後の学会になりそうである。

講演時間とセッション数について

講演会をお世話するにあたって、LOCでは最初



写真2.

次の様に考えていた。今回は急に企画されたこともあり、また単独でしかも東京以外でおこなうので、そんなに講演数もないであろう。従って、1会場でゆっくり時間をかけて質疑応答をおこないながら、のんびりやれば良いであろう。ところが、実際には67講演がエントリーされ、一講演12分となり、休憩時間も満身に取れなかった。一般講演の締め切りの2~3日前に中澤会長からFAXが届き、講演申込が20件程度しかなく、京阪神にもっと呼びかけて講演数を増やす努力をして欲しいということであった。アブストラクトなどというものは締め切りぎりぎりあるいはその直後に届くものであるということを、時間に几帳面な中澤会長は恐らく理解されていないと思ったが、一応お願いした。その効果も多少はあったかもしれないが、むしろ締め切りぎりぎりあるいはその直後に講演申込が相次ぎ、最終的には予定数を大きく上回るようになってしまった。スケジュールをどうしたら良いかという嬉しい悲鳴を、企画委員会が上げるという事態になったようである。LOCも12分では余りにも短か過ぎるのではないかと考えた。ところが、いざ講演会を始めると、登壇者の皆さんは短いということを認識されていて、短時間でうまく講演をまとめられた。だらだらせずコンパクトでなかなかよかったのではないかと私は思う。ただ質疑応答の時間が不足したのは残念であった。時間の関係で今後は2会場で平行におこなえばという意見もあるそうだが、惑星学会設立の経緯や現在の規模を考えると、私は1会場のままの方が、様々な分野の人の話が聴けて良いと思う。LOCの打ち上げ会でも話し合ったが、次の様な案はいかがなものであろうか。講演時間は短くして(10分程度)長い休憩を多めにしておく。質問があり議論が盛んになれば時間を延長し、休憩時間の調節で遅れを取り戻す。始めから講演+質問

の時間を多くとると、一般にはしゃべるだけで質問時間に食い込んでしまう人が多いので、やはり講演時間そのものは短い方が良いと思う。また1会場なので、別会場の進行状況を気にしなくてもよい。講演の絶対数の多さは、ポスターセッションで解決できると思う。第2回秋期講演会は名古屋が第一候補だそうだが、是非御一考をお願いしたい。

会計報告

■会場		
雑費 (菓子、飲み物など)		14,946 円
アルバイト代		31,930 円
写真代		1,256 円
合計		48,132 円
(但し、会場使用料は一部未請求のため含まず)		
■懇親会		
会費収入		
一般	4,000 円×48人	192,000 円
学生	2,000 円×34人	68,000 円
合計		260,000 円
支出		
料理代		200,000 円
ビール代		28,000 円
ジュース類		3,300 円
追加サービス		6,000 円
菓子代		2,394 円
残金		21,306 円
合計		260,000 円

以上

最後に、LOCの皆さんや手伝っていただいた学生の皆さん、また学会の事務局の方々、企画委員会の方々、さらに今回の講演会に参加された方々にお礼を申し上げます。おおきに。